

わかやま母親通信

第55号 2017年7月1日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール:w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

5/21(日) 第62回和歌山県母親大会 in 紀の川市 分科会の申し合わせ事項をもとに、各地で要求運動を!

HP:和歌山県母親大会

第1分科会 親子 たのしい乳幼児期を一遊び大好き!絵本大好き!ー

- ー 平和だからこそできる子どもとの「共感」を大事にしましょう。
- ー 親子で遊んでおしゃべりする機会を増やしましょう。
- ー 地域に根差して一人一人の声を聴いてくれる保育園をつくっていきましょう。



(感想)前半のふれあい遊びでは、とてものびのび楽しそうにしている姿をみることができ、一緒に参加した父親に、家とはまた違った子どもの姿を見ることができたのではと思います。

後半の子育てトークでは、たくさんのお話を聴かせていただき、みんな子育てに一生懸命で悩んでいるのは一緒なんだなあと心強く思いました。アドバイスの中で、「子どもに寄り添う大切さ」が強く心に残りました。これからも楽しくマイペースに子育てをと考えた一日でした。

第2分科会 親子 ゆたかな児童期を 一作って遊ぼう 空気の重さ?を調べようー

- ー 児童期の子どもたちに、失敗をさせないように先回りしたりいろんな体験をさせないようにしたりせず、さまざまな体験を通してたくましく育てましょう。

(感想)今日は私も授業に参加しているような感覚で見られました。子どもは2年生なので、「重さ??よくわからない」といった様子でしたが、時々興味がわいてちゃんと聞いていると、後ろから見て分かったので、本人も楽しかったのではないかと思います。手作りのおもちゃも一緒に作るのがいいですね。楽しかった。

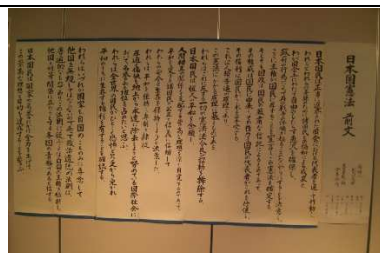
* 大会風景1 原爆写真展…貴志川生涯学習センター 1F 展示コーナー



県原水協による写真展示



原爆写真に見入る参加者



新婦人会員の書による憲法前文

第3分科会 食を学ぼう 語ろう 味わおう

- 一 日々の食生活の中で、意識して五感で味わう体験を大切にしましょう。
- 一 旬のものを生かす食事を大切にしましょう。

(感想) 普段ご飯を食べるときに五感を意識していないように思ったので、今回の3つの体験を通して改めて五感の大切さを知ることができました。給食も小学校、中学校と食べてきて、今も職場で食べているので、給食のエピソード、作り方の工夫が聞けたことが良かったです。えんどう豆のご飯にもそんな工夫があったのかと、食べているだけだと知らない裏側を知ることができました。先輩方の調理方法や保存方法なども聞くことができ、とても勉強になりました。

分科会 パネルディスカッション 話そう! 子ども・学校の“リアル”

- 一 点数で子どもを追い立てるのではなく、学ぶ意欲、自己肯定感を育てましょう。
- 一 失敗が許される安心感、子どもを育てる人との関わりを大事にしましょう。

(感想) 新しい義務教育学校や「子ハウス」の話など、初めて聞いて興味を持って、保護者やボランティアの熱意が伝わり、改めて母親大会の良さが分かりました。「『特別問題がない』子どもを、先生方はどう見ているのか」という質問があり、少し自分を見つめる時間がありました。個人相談もでき、こじんまりした良さが出ていました。

(感想) パネリストとして参加させていただきました。ママ代表、「子ども食堂」運営者、高校の先生、そして私…。「いろいろな立場があるので難しいのでは…？」と思っていましたが、同じ方向を向いている人は根っ子でつながっていると分かり、終了後、すごくさわやかでした。

第5分科会 支援を必要とする子どもたちとともに

- 一 みんなで思いを伝え合い、育ち合う支援をつなげる関係をつくっていきましょう。
- 一 ライフステージを見通して、子どもの思いを受けとめながら、今できる取組みを大切にしていきましょう。
- 一 支援を必要とする子どもが豊かに育つ条件整備やネットワーク作りを進めましょう。
- 一 子どもの支援に必要な人員を増やすように運動を進めましょう。

(感想) 日頃の悩みを相談でき、アドバイスや情報をいただき、本当に実りの多い会でした。支援は個々に合ったもの必要がありますが、それを受けられない子どもも多いのが現状。私たちは、もっと勉強を深めていくことが大切だと改めて思いました。やはりこんな会での人との交流は、情報を手に入れられる貴重な場だと痛感しました。

第6分科会 登校拒否・不登校の子どもたちによりそって

- 一 自分一人で抱かえ込まず話を聞いてもらい、子どもをじっくり受けとめましょう。
- 一 登校拒否、不登校の子どもたちへの理解を深める取組みを広げましょう。
- 一 子どもがホッとできる居場所を、学校や地域につくる働きかけをしましょう。
- 一 地域に子どもたちを守り支援する体制をつくりましょう。
- 一 保護者や関係者が集まり、お互いに話し合える場を広く持ちましょう。

	(感想) うちはまだましな方かなと思っていましたが、話を聴いているうちに大人から抑える力が強くて、まだ自分の本当の気持ちを出せていないのかなと思うようになりました。子どもにはあまり色々言わないようにしているつもりですが、まだ強制する言葉を言っていたなと気づきました。もう少し子どもに判断させて、気持ちを尊重したいと思います。
--	--

第7分科会 ひきこもりがちな青年たちによりそって

- 一 ひきこもりについて共通理解を深めるための学習を進めましょう。
- 一 家族や支援者の様々なつながりを深め、家族・支援者のあり方を考えましょう。
- 一 ひきこもりがちな青年たちの居場所づくりと自立への支援を地域に働きかけましょう。
- 一 しんどさをもつ青年とその家族を受けとめられる機関の情報を交流し、優しい社会の実現を求めていきましょう。

	(感想) 様々な立場から、ひきこもりの方々に関わっているお話を聞くことができました。卒業していった不登校の生徒たちは今どうしているのかなと、ふと思ったりしていたので、教員の立場だけではなく、お母さんの思いや現在引きこもりを克服された方のお話は大変貴重でした。これからの教育活動に生かしていきたいと思います。
--	---

第8分科会 精神障害のある人によりそって

- 一 精神障害者への偏見と誤解を取り除き、地域社会で支えられ自立できる制度や体制づくりに取り組みましょう。
- 一 往診の制度を充実させましょう。
- 一 家族が抱かえ込まないように身近に相談できる場所をつくっていきましょう。
- 一 障害者差別解消法について理解を深める活動を広げていきましょう。

(感想) 県内でも、障害を苦に無理心中を図る事件が何例かあるが、今日参加の家族も、自分の所でもどこでもあり得ると言っていたが、本当にそうだと思う。精神障害者への偏見は、とても悲しく大きな問題だと思います。それをなくして理解を広げていくこと、本人と家族が抱かえ込まないで色々な機関とつながることが必要であると思います。身内・家族が本人にとって一番真剣に考えていることに間違いはないのですが、第三者の冷静な関わりが必要であると思います。

第9分科会 どうなる? どうする?

食の安全・農業・TPP

- 一 TPPの問題性について自ら学び、広めていきましょう。
- 一 女性から消費活動を見直し、選ぶ「眼」をもちましょう。
- 一 「おかげさま」と「おもてなし」の精神で、消費者と生産者がより良い関係を築きましょう。

(感想) 参加者が多くなかったことが、意見交流の活発化につながったかなとも思います。

国の施策には多くの疑問がありますが、それをすぐに変えることはできなくても、消費者ができること、生産者ができることがあるなと感じました。なるべく地元の生産物、日本の生産物を買って、地元・日本の農業を守ること、自給率を上げることに貢献できたらと思います。

第10分科会 どうなる?どうする? 変わる「医療」といのち

- 一 関心を持って、健康・医療について学習していきましょう。
- 一 健康寿命を延ばすために、できる取り組みをみんなで実施していきましょう。
- 一 何でも相談できるかかりつけ医をつくる努力をしましょう。
- 一 安心して医療が受けられるように、声を届ける仕組みを作っていきましょう。
- 一 つながりを広げ、お節介屋さんになってお互いを支え合いきましょう。
- 一 医療制度の改悪に反対しましょう。

(感想) 医療が今後どうなるのか、よくわかった。(国が国民の健康のために) お金をいかに使わないようにするのか。命を大切にしないで本当にひどいと思う。みんなで学習していくこと、知らせ合うことが大事だと本当に思う。帰って資料を読み返して勉強し直したいと思った。

第11分科会 どうなる?どうする? これからの「介護」とくらし

- 一 いつまでも健康で自立した生活を続けられるよう、みんなで考えましょう。
- 一 社会保障・福祉充実のために、地域・自治体・国へ私たちの声を届けましょう。
- 一 持っている力を出し合い、互いに助け合う地域を作りましょう。



(感想) 消費税は悪税だと改めて分かりました。マイナンバーの使用については、強制ではないということが理解できました。介護を実際経験した私にとって、亡くなった母親に、「ただで見てくれているよ。介護料を払っているんよ」と言っていたことを思い出しました。介護保険制度は、どんどん改悪されて、今や『介護あって介護なし』となってきています。

第12分科会 知りたい! フクシマの今 放射能汚染の現状

- 一 フクシマを忘れないために、できることを考え現状を広く知らせていきましょう。
- 一 原発再稼働に反対の声を上げ続けましょう。
- 一 フクシマの子どもたちの健康を守る活動を広げましょう。

(感想) スライドを見せていただき、今のフクシマの様子を改めて知ることが出来ました。年数が経つにしたがい、遠くに住む私たちは、そこへの意識がどんどん薄れてしまいがちです。何がどうなるかわからないのが今の現実です。沖縄問題も含め、「他地域のこと」ではなくて「日本のこと」として問題意識をもたないと前に進まない、未来はないと改めて思いました。

第13分科会 ちひろの願いと子ども・女性の今

- 一 ちひろの想いをつなげ、平和・子ども・女性を守る取り組みを続けましょう。

(感想) ちひろさんの絵のすばらしさを改めて感じる事ができました。著作権(挿絵)の問題に取り組みされて権利を勝ち取ったことは素晴らしい。絵の力、実力があってこそできたことだと思いました。描き方についても、にじんだ色の柔らかい感じが素敵だと思っていましたが、批判されて悩んだことに驚き、芸術とか新しいことは最初から支持されるものではないのですね。

第14分科会 防災—わたしたちにできること

- 身近なものでの減災の取組みを進め、子どもの頃から災害に対応できる環境をつくりましょう。
- 家族の命を守るために、家具の位置や防災用品・防災袋の中身を見直しましょう。
- いざという時の家族との連絡方法、集合場所を互いに確認しておきましょう。
- 依存先を増やしていくが自立と考え、地域のコミュニティを大切に、災害時に託せる場所・人を増やしましょう。
- みんなで助かるためにできることを一つでも考えて支え合いましょう。
- 日用品でできる防災グッズの作り方を学び、工夫しましょう。

(感想) 助言者の言葉で一番印象に残ったのは、「障害の有無に関わらず、『自立=依存しない』ではなく、『自立=依存できる人・場所を増やす』ということです。そのためにも地域のコミュニティを大切にすることです。日頃からの地域との関わりが大事だと改めて思いました。いろいろな情報を知れて良かったです。スライドで流して下さった「マイトレ」などの情報も、資料をいただきました。個人的には思いました。

第15分科会 特別講座 ①消費税のヒミツ/マイナンバー問題 ②電力自由化問題

- 消費税10%中止・当面5%にさせる運動を強めましょう。
- マイナンバーを使わない自由を認めさせましょう。
- 電力会社に原発ゼロを求めましょう。
- 再生可能エネルギー発電で、地産地消をめざしましょう。
- 自然を壊し災害を起こしかねないメガソーラーの設置は止めさせましょう。
- 新電力の電気代に原発の費用を入れることに反対しましょう。

(感想) マイナンバーを使わないようにしたいのに、どんどん拡大していく方向にあるので、先々大変不安です。消費税の増大、マイナンバー制度の導入等は、国が税を増収することを目的としていると思います。それよりも税の使い道を考え良くしてほしいと思います。

第16分科会 特別講座 ③沖縄の現状と願い ④「共謀罪」って何？

- 国民の内心に踏み込む、憲法違反の「共謀罪」を許さない行動を起こしましょう。
- 沖縄の現状を知り、学びましょう。
- 学んだことを周りの人に広めましょう。



(感想) 沖縄は決して基地で潤っているのではないことがよくわかりました。一年前の話でしたが、現在はもっと悪くなって、ヘリパットや辺野古の工事も始まっています…。それでもあきらめずに闘っている沖縄のおじい、おばあち。勝つためにはあきらめないこと!だと。

共謀罪は怖い。嘘で固まっている安倍さん。周りの人にどう伝えるか難しいが、あきらめずに伝えなくちゃ。

第17分科会 みんなで歌声響かせて～歌って語ってリフレッシュ～

- 一 “歌の力は大きいことを信じ、好きな歌を自由に歌える平和な時代がいつまでも続くように、運動を広げましょう。
- 一 世代を超えて歌える歌を、次の世代へ歌い継いでいく活動を広めましょう。



(感想) 助言者の平和への思いが伝わってきました。歌を通してその歌の背景や作者の思いなどを教えていただき、良かったです。「一本の鉛筆」という美空ひばりさんの歌を聴き、目頭が熱くなりました。人々の口元から歌が消えることのない世の中がいつまでも続いていけるよう、私たち一人一人が平和を願いつつ行動を起こさなければと、今一度思い起す時間になりました。

第18分科会 ゆる体操で病気のリスクを9割減らそう

- 一 元気で長生きするために、みんなで助け合って健康づくりを進めましょう。



(感想) 小さい子どもがももぞも、もじもじ、よくしますが、それは自然と体の声に耳を澄ませているんだと思いながら体験しました。普段フロアにペタンと仰向けに寝転ぶことがないので、知らぬうちに、体のいろんな部位が固くなっていました。ゆるりと揺れてゆずって気持ちも緩め、心地よい感覚で心も体も温まりました。この出会いは必然だったんだなと感じます。

第19分科会 体験 藍でスカーフを染めよう

(感想) 初めて藍染めをしました。どんな染め物ができるのか、とても楽しみでした。短時間でしたがわかりやすく教えてくれたので、世界に一つだけのスカーフができました。みなさんの一つ一つ違う作品がとてもすてきで、“みんなちがってみんなE!” でした。

藍の苗をいただき、ここだけで終わらず染めを楽しみに続けていけたらいいなと思いました。



(感想) 「平和だからこんな分科会ができるんですよ」という言葉に、母親大会の意義を感じながら…。

藍でスカーフを染める体験ができることにワクワクしながら参加させていただきました。作っている間からとても楽しみで、藍の緑から空気に触れると濃

い藍色に変わる過程やにおいも、体験で知ることができました。それぞれの仕上がりがとても素敵で、心豊かになれるひとときでした。

(感想) とても楽しく染められました。丁寧に手順を説明していただきながら、他の草木染めや絹染めなどの楽しみ方をたくさん教えてもらったので、またやってみたいと思いました。タマネギの皮をちょっと集めてみようかと本気で思っています。

第20分科会 見学 新緑薫る古寺を訪ねて

(感想)語り部さんの説明が良かったです。根来衆が「鉄砲で栄えて、鉄砲で滅んだ」というお話が胸に落ちました。「旧議会議事堂(一乗閣)」に入れなかったのは心残りでした。

何回か来たことはありますが、歴史の話を聞いたので想像が膨らんで楽しかったです。

(感想)美しい新緑とうぐいすの声を背景に、わかりやすく冗談を交えながらの説明をうかがうことができ、充実した時を過ごせました。交通もスムーズに移動ができ、良かったです。一乗閣での見学では、もっと柔軟な対応をしていただければと、大変残念に思います。

(現地事務局より)

根来寺で団体入場券の一括領収書をもって、それを一乗閣の受付担当者に見せたところ、「一人一人の共通入場券の半券でないと入れない」と言われ、意を尽くして交渉しても結局聞き入れられなかったとのこと、参加者の方には、本当に申し訳ありませんでした。

尚、後日担当課の方へ強く申し入れをしたところ、「今後改善します」との回答でした。

母連対県交渉のお知らせ

今年も、各分科会で熱心な学習と意見交流がされました。そこで確認された申し合わせ事項をもとに要求をまとめ、対県交渉をする予定です。日程は、11月第3週頃になると思いますが、決まり次第、ご連絡します。多数ご参加下さい。

6/3 県実行委員会議での総括・反省より

(現地事務局より)

- ・最初、現地で作る分科会を9つもできるのかの声があったが、地域各団体の日頃の活動を分科会づくりに活かしてできたように思う。←「いずれもいい現地分科会だった」との声あり。
- ・加盟団体だけでは参加目標数が達成できなかった。途中からちらしを増刷して配ったが、ちらしだけでは…。どうしたら来てくれるのか。後で、宣伝カーも使ったら良かったと思った。
- ・5/1からの申し込み分科会で、なかなか申し込みが増えなかった①②分科会は、ちらしを作ったり自分たちで人を誘ったりしてくれて、当日良い分科会になって良かった。
- ・駐車場係は2会場5人ずつ頼んだが、もっと必要だったかもしれない。
- ・けが人が2人出たので、「救急箱」の準備も必要だと思った。当校でお世話になった。

(全体交流より)

- ・駐車場が狭かった？午後ちょっと遅く来たら、駐車場に入れなくて帰った人もいたようだ。
- ・会場案内が分かりにくかったようで、貴志川中学校の入り口で迷っている人が多かった。案内人を立てる必要があると思う。←2, 3階の廊下には、当校先生たちが立ってくれていた。
- ・分科会終了時に、「分科会グッズ返却」で本部が混雑するので、人が必要だと思った。
- ・センターの展示場も奥まったところだったので、せっかくの原爆写真展が分かりにくかった。
- ・弁当は安くて美味しかった。世話をしてくれた人は大変だったと思う。混乱がなくて良かった。
- ・見学分科会で、「一乗閣」へ入れなかったことで「残念」の声があったが…。←後日申し入れに。
- ・何かあった時の連絡・確認のためにも、参加券に分科会番号の記入欄があった方が良い。
- ・「時代に合った」内容を考え、次の世代へ引き継ぐ努力を、今後もしていくことが大事だと思う。

*大会風景2



貴志川中学校会場



6/15 早朝 数の暴挙(自民・公明・維新)で、「共謀罪」法案の採決強行

一昨年夏、「安保法制」を成立させるのに異例の会期長期延長、今回の「共謀罪」では、参議院の委員会採決をすっ飛ばしてでも会期末の本会議で採決強行の異常。

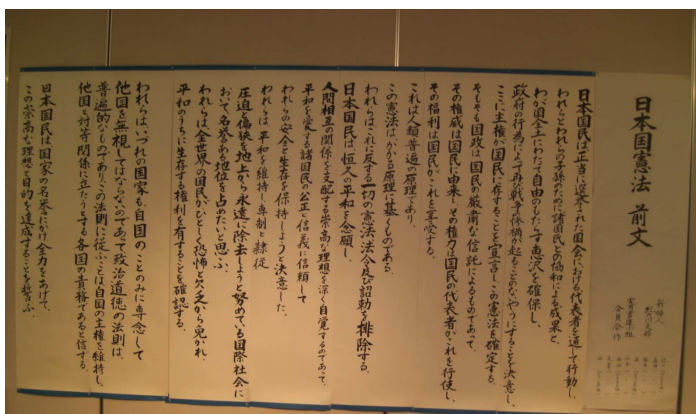
政権が何としてもやりたいと思ったら、「異例」も「異常」も関係なく、「数の力」で押し切って「成立した」ことにしてしまう。これが今の日本の国会なのですね。

もうそれは「議会制民主主義」ではなく「専制政治」にほかなりません。世界で有名なあの独裁政治家の顔が浮かんできます。戦前の日本に逆行したかのようにも思い、恐怖と怒りで身震いがしそうです。そんな思いを抱かれた方も多いと思います……

でも、慌てないで落胆しすぎないで冷静になって考えてみましょう。現在の私たちには、「平和主義」を宣言し「国民主権」を保障する「日本国憲法」があるのです。憲法を活かして、「ダメなものはダメ」と意見表明し続け、表現行動し続けましょう。

- * 政治も経済活動も、人間が幸せになるためにあるのです。(第61回県大会 浜矩子氏)
- * 私たちは微力ですが、微力と微力が繋がれば大きな力に。(第62回県大会 宇都宮健児氏)
- * 国民の15%が動けば「世論」が変わり国は動くのです。(17we love 憲法集会 伊藤千尋氏)
- * 明けない夜はない。(かつての東北で労働運動の先頭に立った女性 村山ひで氏)

こんな言葉を力に、私たちは、「だまされない あきらめない 立ち止まらない」で、「だれもが幸せに生き、平和にくらせる社会」の実現をめざして歩み続けましょう。



現地新婦人会員の書による憲法前文 於；県大会会場